大阪市立大学学術情報総合センター医学分館

橋野みちよ*

大阪市立大学学術情報総合センター医学分館

I. 医学分館の歩み

大阪市の南部、天王寺駅から徒歩5分の所に、医学分館は位置している。阿倍野地区の再開発に伴い、病院や学舎の建て替えの歴史の中で、阿倍野キャンパス内を転々と移動してきたが、平成9年4月に“あべのメディックス”というテナントビルの9階・8階に移転し、大阪市立大学学術情報総合センター医学部分館と名称も変更して開館し、今年で10年目を迎えている。平成10年には、医学部の為だけの図書館ではなく、医学教育・研究・診療に寄与するため阿倍野キャンパス全体にサービスをする思いをこめて、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館と名前を変えている。また、看護学舎の5階には、看護学科図書室もあり、医学分館と一体的運用をしている。歴史を紐解けば、当館は、昭和19年に大阪市立医学専門学校（医専）に図書室が設置され、一方医専附属病院となった大阪市立南市民病院には、病院図書室が設けられた。昭和22年に医専は大阪市立医科大学に昇格し、また昭和30年に医科大学が大阪市立大学に編入された時に、大阪市立大学附属図書館医学部分館として、発足した。看護学科図書室も、大阪市立大学医学部附属看護専門学校から、大阪市立大学看護短期大学部、大阪市立大学医学部看護学科と名称を変えるたびに図書室の名称も変わってきている。また大阪市立大学そのものが、平成18年には公立大学法人大阪市立大学に衣替えをしている。

II. 医学分館の現状

あべのメディックスの9階にメインカウンターを置き、最新の雑誌（1997年以降）や図書を配架している。8階にはAV資料とその視聴ブースや、9階に配架している雑誌より以前のもの（1996～1981年）を配架している。それ以前の古い資料は、旧分館棟の2階から4

階を書庫として使い配架している。

テナントビルであるので、開館時間が夜の9時までの制約があるとか、配架場所およびカウンターが4ヶ所にも分かれていて、職員の配置に無駄が多いとか、学舎や病院棟から離れているとの負の要素があるものの、利用者にとっては、大阪の中心部が一望に見渡せ、夜には通天閣のネオンが正面に見える、窓際に閲覧机を配して、すばらしい眺望・開放感と静寂な環境を提供できていることを自負している。

建物・施設	医学分館	看護学科図書室
延面積	3,868 m ²	363 m ²
閲覧席数	344 席	78 席
所蔵資料		
図書	和 32,124 冊 洋 12,403 冊	和 22,198 冊 洋 4,145 冊
製本雑誌	和 26,983 冊 洋 66,759 冊	和 2,158 冊 洋 309 冊
新着雑誌	和 445 誌 洋 443 誌	和 204 誌 洋 60 誌
視聴覚資料	881 種類	562 種類
電子ジャーナル	約 2,000 誌	
開館日数	医学分館 看護学科図書室	年間 約 283 日 年間 約 238 日

*Michiyo HASHINO : 〒545-8585 大阪府大阪市阿倍野区旭町1-4-3.
Tel.06-6645-3491 Fax.06-6645-3489 (2007年6月5日 受理)

正規職員は4名の司書であるが、プラス、派遣、委託、短時間勤務職員で日々の業務をこなしている。利用者教育については、まさにこの正規職員4名の使命であると考えている。当館の利用者教育の始まりは、昭和47年に文献検索法をM4の学生に細菌学の講義時間を使って講義をしたのが始まりであると言われている。プレゼンのやり方等、医図協の研修に負うところが大きいにある。

情報提供の変化は著しく、雑誌の冊子体から電子

大阪市立の医療機関に勤めている、医療従事者に対しては、分館専用カードを発行している。一方で図書館市民利用制度が設けられていて、大阪市にお住まいか、お勤めの方に対して、有料で利用者カードを発行している。大阪市内にある医療機関の医療従事者の方には、この制度で利用していただいている。また、大阪市立大学医学部附属病院に通院されている方や、ご自分や家族の方の病気に関する医療情報を得ようとして、図書館市民利用制度に登録される方が増えている。この方達の為の資料収集の費用は別途あるわけではなく、あくまで医学教育・研究・診療のために収集している資料を良かったら使ってくださいのスタンスで対処しているに過ぎず、レファレンスにおける資料提供・情報提供も不十分なところに止まっている。こういう利用者の流れを受け止め、市内の交通の便が良い立地条件を生かして、今こそ医学分館とは別に、医療従事者のアドバイスが受けられる患者向けの図書室や、市民への医療情報提供の場を模索していく必要性を感じている。